～施設職員から～

＜従来特養＞

・窓ガラスが散乱している状況や離床センターが使用できない状況で要介護度の高い利用者や常時見守りが必要な利用者の支援をしていくことの大変さをイメージでき、見守りができる体制について考えることができた

・電話が繋がりにくい状況を想定した時に、家族や関係機関と連絡がとれない状況も考えられるため、事前に協議し、取り決めをしておく必要があると感じた

＜ユニット特養＞

・各個室には入居時に持参している家具類が多く、居室内の被害（家具家電の倒壊）が大きいと予測した

・小型発電機置き場所について、物が散乱する可能性が大きい物品庫ではなく、非常時にも早急に準備できる場所への移動を検討する必要がある

・図上訓練を通して、多くの被害予測お課題を抽出することができ、今後の防災対策に役立てたい

＜養護＞

・風除室やデイサービスの作業訓練室、また養護の食堂ホールなど、窓ガラスを多く使用している箇所は、災害に備えて整理整頓が必要であると感じた

・施設内各所に設置されている設備や備品の使用方法、また保管場所を全職員が把握していなければならないと痛感した。再度確認し周知する。

・災害時の弱点を知ることができた

＜北光園＞

・被害状況に応じて、　具体的な対策を考えることができた

・暖をとるストーブや毛布、またランタン等の照明、非常用飲食物など、物資不足であることを実感し、今後の検討課題となった

＜潮見園＞

・被害想定カードを元に、被害状況を図面に書き込んでいったが、倒れる物や割れる物等、たくさん被害のあることが図面上で分かったので、実際に地震が起きた場合は深刻な被害を受けることになるだろうと感じた

・災害が起きた際の職員の役割分担の重要性について、改めて確認できた

・近隣住民が避難してきた場合には、東地区拠点センターとの連携も必要だと感じた

講評

　稚内市総務防災課　小室主幹

　今回の訓練は、付与された災害状況へのアプローチの仕方を考えるものであったと思う。被災した際、最初にやるべきことは、施設の被害状況を把握すると共に、利用可能な設備と備蓄品を把握し、自分達（職員）ができることは何かを考える事だと思う（能力分析を行う）。これにより、その後の対策がスムーズなものとなるのではないか。また、施設間でヒトやモノを貸し借りする工夫もよかったが、施設利用者と職員まるごと移動し、隣接施設合同で要援護者への介護にあたるという発想もあれば尚良いと感じた。

　稚内消防本部　佐藤主幹

　この図上訓練は、職員の気づきの場になったのではないか。9月6日に発生した胆振東部地震の影響により、稚内でも停電が発生したが、たった2日間でもあの状態であった。発生時期が冬期間であったと考えるとゾッとする。『日頃の備え』という日常的に使っている言葉の重みを再認識する機会となったのではないか。今日は訓練の為、被害想定に津波や火災は付与されなかったが、実際は地震の影響で火災が起こることが多々あり。（事業継続に係る）状況はもっと困難なものとなるはず。今後もこのような方法での訓練を継続してほしい。

　災害対策本部長　満保常務理事

　近年の北海道に於ける自然災害発生状況から、比較的災害の少ない稚内に関しても油断のできない状況にあると考えている。今回の図上訓練を行ったことにより、参加した職員一人ひとりが、備品や設備、建物構造など、日常業務の中では盲点となっていた施設環境に気づくことができたのではないかと思う。参加者の皆さんは今の気持ちを継続して今後の防災対策に活かして欲しい。チーム力により施設の防災力、また法人全体の防災力の向上に努めていきたい。